

国語科学習指導案

富田林市立小金台小学校

指導者 土田 晃嗣

1. 日時

令和4年 12月1日(木) 第5校時(13:25~14:10)

2. 学年・組

第4学年1組(37名)

3. 単元名・教材名

気持ちの変化を読み,考えたことを話し合おう 「ごんぎつね」 光村図書・4年

4. 単元目標

- ・文章を読んで理解したことに基づいて,感想や考えをもつことができる。(思C(1)オ)
- ・様子や行動,気持ちや性格を表す語句の量を増し,話や文章の中で使うとともに,言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し,語彙を豊かにすることができる(知(1)オ)
- ・登場人物の気持ちの変化や性格,情景について,場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思C(1)エ)
- ・文章を読んで感じたことや考えたことを共有し,一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。(思C(1)カ)
- ・登場人物の行動や気持ちについて,叙述を基に捉えることができる。(思C(1)イ)

5. 指導にあたって

(1)教材観

本教材は,6場面構成され,5場面までは主人公である『ごん』の視点で書かれている。そのため,『ごん』の心情やその変化を捉えやすく,場面の展開に沿って人物の気持ちの変化を想像しながら読む力をはぐくむ作品である。また,『ごん』のひたむきな気持ちと姿に寄り添いながら読んでいくことで,さまざまな思いが入り交じる感情を味わうことのできる作品でもある。『ごん』が作品の中で感じる,「ちょっとしたいたずら心が思わぬ影響を及ぼしてしまうこと」や「せめてもの償いという切ない思い」,「共感」,「無私のはずの償いの行為の底にも認められたい思いが生まれること」などは,人間の気持ちの根底にあるものである。ごんの思いが兵十に伝わったことへの喜びや,同時に感じられる取り返しのつかない悲しみの気持ちを通して,何とも表現できない切なさを感じさせたい。また,自分の心の奥をのぞき,感じる経験も積ませたい。4年生という自我が芽生えようとする時期に,想像力をもう一段階高め,今後の人間関係につながるようにする。

本教材は登場人物の気持ち,豊かな情景描写によって表現されている作品でもある。それぞれの場面ごとの登場人物の気持ちを想像するにとどまらず,物語全体を通じて複数の叙述を結びつけることで,『ごん』の気持ちの変化や,『ごん』と『兵十』の気持ちのすれ違いを味わわせたい。

(2) 児童観

本学級では、自分の意見をノートにまとめ、伝え合うことを第一に授業展開を行ってきた。物語文でも説明文でも、叙述を基にして自分の意見を書いて伝え合ったり、他者の意見を聞いて共感・納得し、その気持ちを表現したりすることができるようになってきている。しかし、その一方で、他の児童の意見に対して質問できる児童が少ないということ、全体の場で意見を出しにくい児童がいることが課題である。

本単元では、全体の場でさまざまな意見が出るように、グループ活動の際にすすんで質問したり、共感の気持ちを言葉でしっかりと伝えたりなど、他者の意見に対して反応することを大切にするように指導していきたい。

(3) 指導観

①児童の読みや考えを深める対話

本単元では、話し合い活動を通して登場人物の気持ちや作者の意図にも深く迫っていききたい。また、場面と場面のつながりを意識して読み、既習の場面をふり返って、さまざまな叙述・情景描写とつなげながら、登場人物の気持ちや人物像を考えさせたい。

『ごんぎつね』の作品は作品中にごんの心情について描かれている場面はない。ごんの行動や会話文から心情を読み取り、読み手がごんの心情を考えながら読み進めていく。そして、その心情の捉え方の違いについて話し合い、自分の考えを深めさせたい。物語文の読み手のイメージは様々なので、その違いに気づき、「質問」をしたり、「相違点」を話し合うことで児童に疑問を常に持たせながら、対話を進めていきたい。

また、第3次では、ごんの気持ちを通して、作者の思いや作品に対する思いにも迫っていく。自分の考えをまとめ、他者と意見交流をするなかで、「ごんぎつね」という作品には、さまざまな思いがあることに気付かせ、今後の学習に活かしていきたい。

②めあてとふり返り

本単元ではめあてに対するふり返りを書くことができることを目標とする。ふり返りを書く際に、ごんの行動や情景描写など、叙述をもとにふり返り、他者の意見と自分の意見との比較を行うふり返りを目指していく。しかし、ノートに書く際、叙述をもとに書くことや、他者の意見を書くことが難しい児童もいる。その際、タブレットを利用し、本時のふり返りの書き方や、めあてに対してのふり返りのポイントなどを明記した内容を児童に配布することで、自信をもってふり返りを書くことができるよう支援していきたい。

6. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
様子や行動, 気持ちや性格を表す語句の量を増やし, 語彙を豊かにしている。(I)オ)	「読むこと」において登場人物の気持ちの変化や性格, 情景について, 場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(I)エ)	学習の見通しをもって, 読んで考えたことを話し合い, 一人ひとりの感じ方などに違いがあることに気付こうとしている。

7. 単元の指導と評価の計画(全10時間)

時間	○学習活動	◇指導上の留意点	・評価規準
第1時	『ごんぎつね』を読み, 初発の感想をまとめる。	◇これまでの学習『一つの花』や『プラタナスの木』では叙述をもとに感想を書いているので, その声掛けを行う。	・単元目標を理解し, 進んで『ごんぎつね』を読んで, 学習計画の見通しを立てようとしている。 【思・判・表】
第2時	初発の感想をもとに, 学習課題を設定し, 学習計画を立てる。	◇物語の全体像を捉えさせ, 学習の見通しをもたせる。	・既習事項をいかして読み, 登場人物の気持ちを捉えている。【主】
第3時	「1」の場面を読み, ごんの人物像を捉え, ごんがどのような気持ちでいたずらをしていたのかをまとめ, 話し合う。	◇叙述をもとにごんの行動から気持ちや性格を考えさせる。	・情景描写や会話等の表現や叙述をもとにして, 登場人物の気持ちについて考えを持っている。 【思・判・表】
第4時	「2」の場面を読み, 兵十のおっかあの葬式を見たあと, あなの中でごんが考えたことをまとめ, 話し合う。	◇情景描写からごんの気持ちを考えさせる。 ◇ごんの主観的な気持ち(思い込み)を押さえる。	・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し, 自分の考えを広げている。 【思・判・表】
第5時	「3」の場面を読み, 連日兵十のところへ乗や松たけを持っていくごんの気持ちをまとめ, 話し合う。	◇ごんの行動の変化に着目させる。 ◇ごんの行動の変化から心情を読み取らせる。	
第6時	「4」の場面を読み, 井戸のそばにしゃがんでいるときのごんの気持ちをまとめ, 話し合う。	◇5場面を意識させながら4場面でのごんの行動から心情を考えさせる。	

第7時 (本時)	「5」の場面を読み、兵十と加助の話聞いたあとのごんの気持ちをまとめ、話し合う。	◇6場面の行動も音読し、その行動も含めて、ごんの心情の変化について考えさせる。	場面と場面を結び付けたり、比べたりして、登場人物の気持ちの変化を読み取っている。【思・判・表】
第8時	「6」の場面を読み、「青いけむり」が表しているものについてまとめ、話し合う。	◇兵十の目線で描かれていることに着目させる。	情景描写や会話等の表現や叙述を基にして、登場人物の気持ちについて考えを持っている。【思・判・表】
第9時	ごんと兵十の気持ちの変化についてまとめ、話し合う。	◇ごんと兵十の気持ちの距離について話し合わせる。	登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わりと結びつけて想像し、まとめている。【思・判・表】
第10時	ごんの気持ちを通して、作者が伝えたいことや『ごんぎつね』の作品から感じたことをまとめる。	◇情景描写やごんの行動からの心情をふまえて『ごんぎつね』の作者の気持ちを考えさせる。	読んで理解したことに基づいて感想をもち、友だちの考えを聞き、自分の考えをまとめている。【思・判・表】

8. 本時の目標

ごんの心情について考え、自分の考えをまとめることができる。

9. 本時の判断基準

十分満足できる状況	概ね満足できる状況	努力を要する子どもへの支援
<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の思いをふまえ、話し合いを通して、作品から感じたことや作品に対する自分の思いを考え、表現できている。 ・作品を通して、作者の意図について、自分の思いを考え、表現できている。 ・ごんの行動や思いの変化を自分の普段の生活に置き換えて表現することができている。 	登場人物の気持ちを捉え、話し合いを通して、感じたことを表現できている。	ごんの気持ちがわかる文章や言葉に着目させる。グループでの話し合いを通して、自分の考えをもてるようにする。